

## 安心できるスペース

学習スペースを離れ、リラックスできる場所を教室内外に確保します。子供同士自由に遊ぶ場が保障されることによって、緊張がほぐれ、新しい友達とも仲よくなります。使うときのきまりは、子供たちと話し合っ決めて、守ることができるようにします。

集団学習が苦手な子供には、一人で落ち着ける場所を用意します。場合によっては、パーティションも活用します。気持ちが落ち着いたら席に戻る約束をしておきます。

扉が低い園所のトイレに比べ、閉ざされた空間である小学校のトイレに不安を感じる子供もいます。かわいく飾るなどすると、不安が和らぎます。



## 活動による学習形態の工夫

多くの園所では、子供たちは4～6人のグループ机で生活をしています。入学当初からできるだけ同じような形を取り入れることで安心できるため、友達との距離が縮まり、話し合い活動が充実していきます。

また、活動内容によって、ペアやグループなど学習形態を工夫したり、教室内外での活動場所を変えたりすることで学習への意欲が高まり、主体的・協働的に学習を進めることにつながります。



学習形態の工夫



内容に応じた活動場所

### (4) スタートカリキュラムの作成

スタートカリキュラムの作成においては、生活科と各教科等の学習がどのように関連しているのかを意識した上で、子供の興味・関心、思いや願いを生かした活動をつくるのが大切です。そのためには、年間指導計画から、合科的・関連的に指導できそうなものをあらかじめピックアップし、教科等の内容やねらいを把握しておくことが必要です。

## スタートカリキュラム作成の手順

- ① 幼児期における子供理解  
(幼児期の終わりまでに育ってほしい姿とは？遊びが学びにつながるとは？)
- ② 期待する子供の姿の共有  
(スタートカリキュラムで期待する子供の姿は？)
- ③ カリキュラムのデザイン  
(単元の構成と配置をどのようにすれば合科的・関連的になるか？)  
(週の計画と時間配分をどのように工夫するか？)



※スタートカリキュラムの具体例は、別添資料参照

## コラム

幼保小でぜひやってほしい！！

### 円滑な幼保小接続を実現するための 3 ポイント

ポイント①：学校や各園内で組織をつくり、カリキュラムを作成・共有する

- 各園所・学校内の担当者を決定し、組織をつくる。
- 子供の実態を話し合い、各園所・学校内で目指す子供の姿を明確にする。
- 目指す子供の姿を基に、意図的・計画的な教育課程（アプローチ・スタートカリキュラム）を作成する。
- 市町村、学校区等の研修会でアプローチ・スタートカリキュラムを共有する。

ポイント②：子供の姿で語り合う

- 保育・授業を参観し合い、子供の姿から各園所・学校の目指す子供の姿に即して話し合う。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考に、各園所・学校内の子供の育ちと学びについて語り合う。
- 各園所・学校間による異校種間研修（体験研修）を行い、相互理解を図る。

ポイント③：実践による成果・課題をもとに見直し・改善を図る

- 活動の中で見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考に、子供理解を進める。
- 各園所・学校内の子供の姿を基に、課題を共有し改善につなげたり、成果を積極的に共有したりする。
- 資料を蓄積し、成果と課題を基にアプローチ・スタートカリキュラムを見直し・改善を図り、次年度以降の実践につなげる。

## 架け橋期のカリキュラム

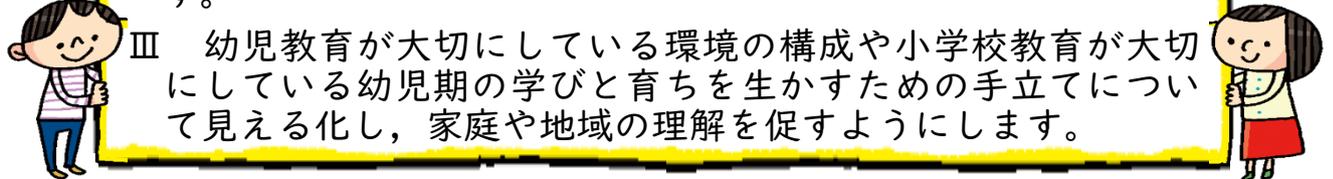


※幼保小で協働して作成するカリキュラムです。  
最終的には、このカリキュラムを作成しましょう。

### (1) 架け橋期のカリキュラムとは

幼児教育と小学校教育の関係者が連携・協働し、幼児期から児童期の発達を見通し、教育のつながりを意識して実施される5歳児から小学校第1学年までの2年間にわたるカリキュラムのことです。

## (2) 架け橋期のカリキュラムのねらい



I 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児と小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善に当たることを推進します。

II 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができるようにします。

III 幼児教育が大切にしている環境の構成や小学校教育が大切にしている幼児期の学びと育ちを生かすための手立てについて見える化し、家庭や地域の理解を促すようにします。

## (3) 架け橋期のカリキュラム作成の進め方（イメージ）

		1年目		2年目		3年目	
		フェーズ1 基盤づくり	フェーズ2 検討・開発	フェーズ3 実施・検証	フェーズ4 改善・発展サイクルの定着		
架け橋期のカリキュラム	方針	○架け橋期のカリキュラム開発会議における準備 ・構成員の選定と目指す方向性の共有 ・地域の実態の把握（開発会議は自治体に設置）	○架け橋期のカリキュラム開発会議における検討・開発 ・方針の検討・決定、開発への支援 ・国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携開始（モデル地域対象）	○架け橋期のカリキュラム開発会議による実施の検証 ・実施状況の把握・検証と支援 ・国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携推進（モデル地域対象）	○持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム開発会議の運営 ・方針の改善・発展と支援 ・国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携強化（モデル地域対象）		
	具体化	○接続を見通し、各園・小学校で教育課程編成・指導計画作成 ・園・小学校での活動の共有 ・子供の交流	○架け橋期のカリキュラムの検討・開発 ・共通の視点をもとに内容の検討・開発 ・人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の共通性の理解 ・子供の交流の推進	○架け橋期のカリキュラムの実施・検証 ・園・小学校において教育課程編成・指導計画作成、実施・検証 ・人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用 ・子供の交流の充実（子供の自発的な交流等）	○持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム ・持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム ・人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用の充実 ・持続的・発展的な子供の交流実施（子供の自発的な交流等）		
	園・小学校	○各園・小学校での体制 ・連携窓口の明確化 ・自園・自校の先生への意識啓発と参画	○幼保小間の体制 ・幼保小の合同会議の設置 ・相互の教育の内容や方法に関する理解の共有	○幼保小の協働実施の体制 ・幼保小の合同会議の充実 ・相互の教育の内容や方法に関する理解の深化	○持続可能な体制 ・幼保小の合同会議の定着 ・相互の教育の内容や方法に関する理解の改善・発展		
	自治体	○連携強化への支援 ・研修の実施（幼保小合同研修等） ・自治体内の関係部局との連携	○接続に向けた支援 ・研修の推進、研修教材の開発 ・関係機関との連携を深め、園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネート	○幼保小の協働実施の支援 ・研修の充実、研修教材の活用 ・実施上の二ーズの把握と支援 ・園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネートの充実	○持続的・発展的な取組を支える支援の定着 ・研修の改善・発展、研修教材の改善・発展 ・必要な支援策の改善・発展 ・園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネートの改善・発展		

「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）より」（文部科学省）

#### (4) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

幼児教育と小学校教育に携わる関係者が子供の姿を共有し、幼児期の遊びが小学校生活にどのようなにつながるか話し合う手掛かりにしましょう。

	5歳児後半の姿 ・ 具体的な姿(例)	教師の支援・援助(例)	小学校での姿(例)
① 健康な心と体	<p>園生活の中で、充実感をもって<b>自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出す</b>ようになる。</p>  <p>こんな技もできるようになったよ。体を使って遊ぶって楽しいな。</p>  <p>外から部屋に戻る時は、手洗い・うがいをしっかりしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児が自ら体を動かし、多様な動きを楽しめるように工夫する。</li> <li>・ よりよい生活のために必要な行動を幼児の必要感に基づいて身に付けていけるよう工夫する。</li> <li>・ 健康で安全な生活のために必要なことを学級で話題にして一緒にやってみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>次の活動を</b>考えて準備するなどの<b>見通し</b>をもって行動する。</li> <li>・ <b>安全に気を付けて</b>登下校しようとする。</li> <li>・ 小学校の学習における運動遊びや休み時間などに<b>他の児童と一緒に楽しく過ごすこと</b>など、自ら<b>体を動かし</b>て<b>楽しく遊ぶ</b>。</li> </ul>
② 自立心	<p>身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、<b>しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げる</b>ことで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。</p>  <p>自由遊びが終わったら、みんなで片付けをしよう。</p>  <p>なわとびが上手にできるようになりたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児一人一人が、自分で活動を選びながら園生活を主体的に送ることができるようにする。</li> <li>・ その日に必要なことなどをどの幼児も分かりやすいように視覚的に提示する。</li> <li>・ 幼児が自分で考えて行動できるよう、ゆとりをもった園生活の流れに配慮する。</li> <li>・ その日の流れを意識できるように個別に援助する。</li> <li>・ 一人一人の幼児のよさが友達に伝わるように認めたり、学級全体の中で認め合える機会をつくらしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>自分でできることは自分で</b>しようと積極的に取り組む。</li> <li>・ 生活や学習での<b>課題を自分のこととして受け止めて意欲的に</b>取り組む。</li> <li>・ <b>自分なりに考えて意見を言ったり、分らないことや難しいことは、教師や友達に聞きながら粘り強く取り組んだりする。</b></li> </ul>
③ 協同性	<p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、<b>共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げる</b>ようになる。</p>  <p>ジュース屋さんになって、たくさん売ろう。</p>  <p>砂場に自分たちの町をつくらう。僕たちは道を作るから、他の人は山とか家とかを作ってね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単に一緒に活動できることを優先するのではなく、一緒に活動する中で、互いのよさを認め合うことができるようにする。</li> <li>・ 共通の目的の実現のために、試行錯誤しながらも一緒に実現に向かおうとする過程を丁寧に捉え、一人一人の自己発揮や友達との関わりの状況に応じて、適切に援助する。</li> <li>・ 相手のよさに気付いたり、協同して活動することの大切さを学んだりしていけるよう援助する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級での集団生活の中で、目的に向かって<b>自分の力を発揮しながら友達と協力</b>する。</li> <li>・ 様々な意見を交わす中で、<b>新しい考えを生み出しながら工夫</b>して取り組む。</li> </ul>